



曾比さくらの会 会長の相川さん。一人、桜に寄って行き眺めるなんとも言えない眼差しが印象的であった。



世話役の剣持政司さん。来る人来る人に声をかけて、席を案内したり、お酒を渡したりと、ずっと動きっぱなし。



長年手のつけようのない不法投棄地域だった。数年前までこの状態だったとは信じられない。



綿飴作り中、生徒1人に先生6人！



綿飴の宅配サービス。



スピーカーが無造作に置かれ、そこからは演歌が流れている。堤防を見上げるとその向こうに見事な青空が広がっている。会場を挟んだ反対側には菜の花畑が、これまた見頃をむかえて綺麗な黄色い花を緩やかな風にゆらせている。

今日ここに集まっているのは曾比の桜愛好会の皆さん。これから毎年恒例のお花見が行われるのだ。すでにゴザが敷かれて、その上に机がせつせと運ばれていく。次におつまみやおにぎり、ビールが机ごとにセッティングされていく。楽しそうである。「曾比・桜愛好会」では、年に3回の草刈りと、年2回の病虫害駆除を行っている。会員はなんと200名ほどいるようだ。

お昼頃になると、徐々に桜愛好会ではない近所に住む家族連れなど一般の方たちも集まってきて、会長の相川さんのあいさつでゆるやかにスタート。子どもたちは土手をかけ上がり、綿飴の機械で会員の方たちに教えてもらいながら汗を流して真剣に自分の綿飴を作ったりしている。大人たちは、桜の樹の下（というかまだ華奢な少年のような若木なので近くで）つかの間の開放感に顔を緩ませていた。

お花見への参加は会員でなくてもOKで、むしろ歓迎している。もちろん桜の会への勧誘や、募金も一切ない。不法投棄のない環境を今後も維持していくには、みんなが普通に見にくる景観地域にしな

くてはいけないと考えているからだ。だから会員以外は料金も必要ない。みんなの場所だからだ。おつまみや、お酒も無料。これはサービス。会員も昔は無料だったが、今は会費制でひとり500円。これも、そうして少しでもお金を取らないと、各自がご祝儀を持ってきてしまい、大変なことになってしまいうかららしい。だからとりあえず会員はひとり500円にしたが、それでも十分あまってしまいうからで、今のところこの宴会の資金面での問題はまったくないよううらやましい。

世話役の剣持政司さんは、「俺たちがやっていて、まさか子どもの喜ぶものまで用意してるとはみんな思わないでしょ？だから、かわいいお菓子とか色々用意しておくんだよ。そうすると喜ぶんだよ。ここで思いっきり走り回れたりさ。子どもを喜ばせたいんだよ。で、大人になつて地域から巣立って行くときに、思い出の一つも持たせてやりたいんだよ。」と、小声で教えてくれた。子どもが「地域から出ていけないように」や、「地域に帰ってきてくれるよう」ということではなく、「思い出を持たせてやりたい」というところに、この「曾比・桜愛好会」の方たちの地域に対する「こころ」を見た気がした。ただ純粹に同じ地域の人々を思いやっているのだ。本物の地域コミュニティとは、かくも素晴らしいものなのかと、感動の宴であった。

